

平成23年度

第4回 芦屋の里浜づくり実行委員会

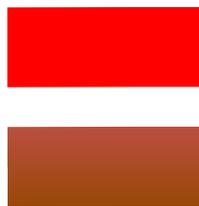
『住民参加について』

平成24年2月21日

第4回 芦屋の里浜づくり実行委員会 「住民参加について」



作る（試験施工）
スケジュール



育てる（試験育成）
スケジュール

平成23年度

『作る』について
(試験施工)

『作る』のスケジュール

『作る』の項目で重機など用いる作業は、現在、県が行っており、マツの植栽などについては、住民の参加を予定しております（詳細は後程説明します）。

平成23年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
試験施工項目												
コウボウムギ 種子の採取						↔						
種子の播種												11日予定
前砂丘造成 堆砂垣設置										↔		
静砂垣設置											↔	
クロマツ植栽												11日予定

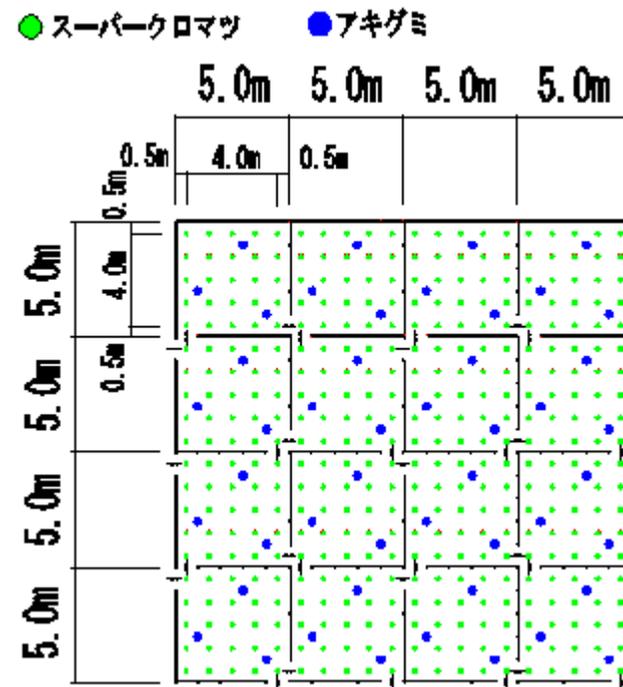
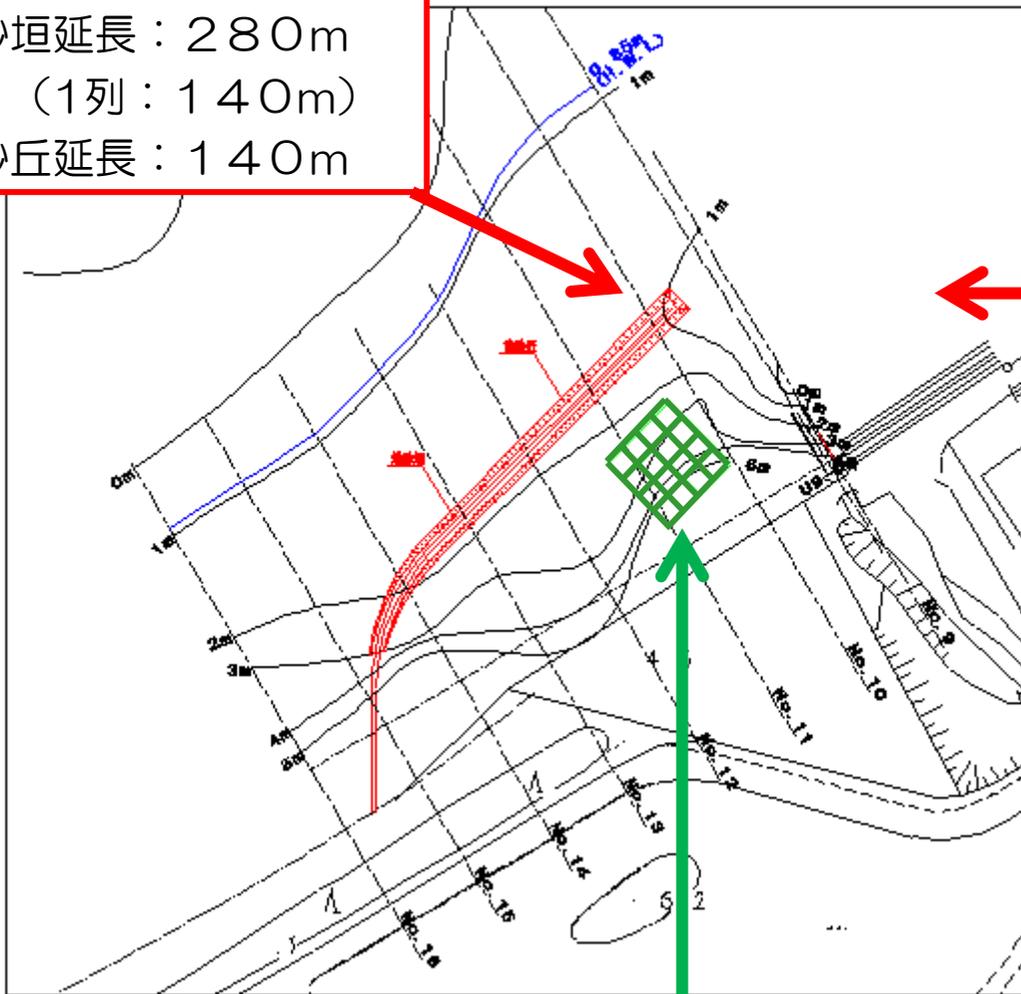
作る（試験施工）について

平成23年6月25日10:40撮影 小潮 T.P.=約0.0m



作る（試験施工）箇所

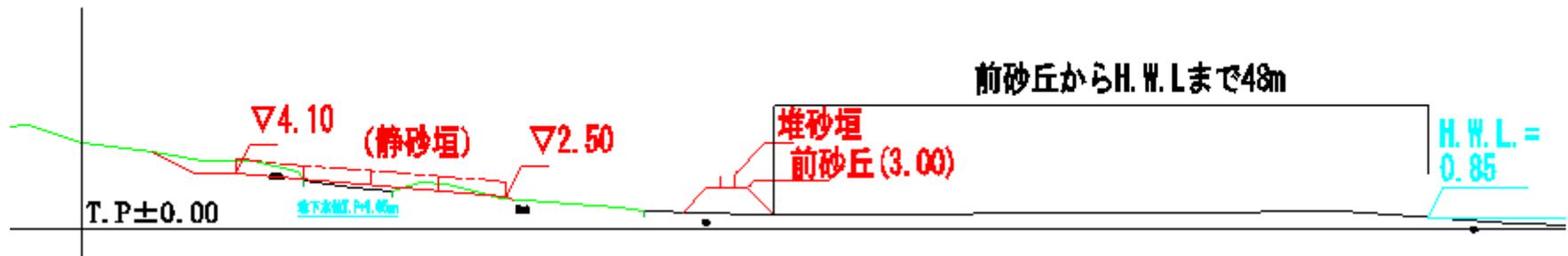
堆砂垣延長：280m
（1列：140m）
前砂丘延長：140m



植栽面積：400㎡、クロマツ：400本
16区画（1区画=5m×5m）

『作る』 前砂丘、堆砂垣と静砂垣

前砂丘の造成（**施工中**、県）



『作る』 クロマツ植栽

静砂垣設置（平成24年施工中）

静砂垣設置状況



静砂垣完成イメージ



クロマツ植栽（平成24年3月11日予定）

クロマツの植栽作業

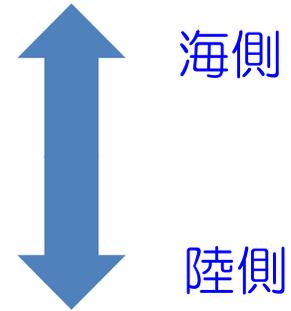
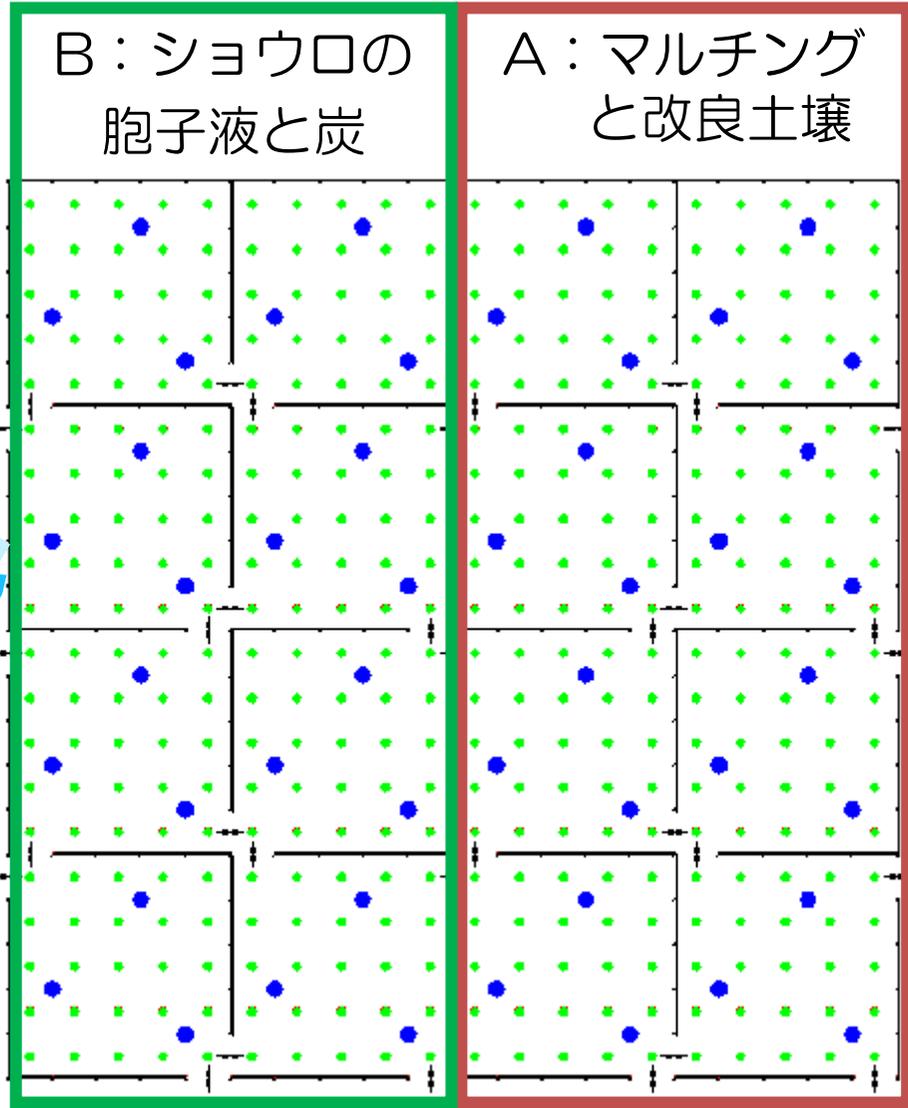
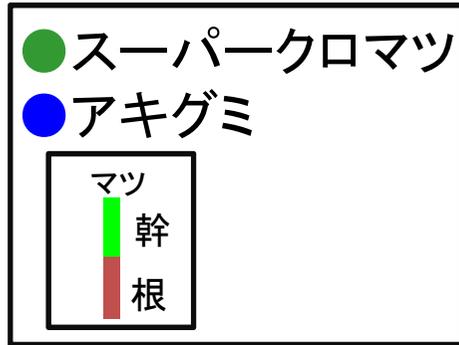


クロマツの植栽作業直後

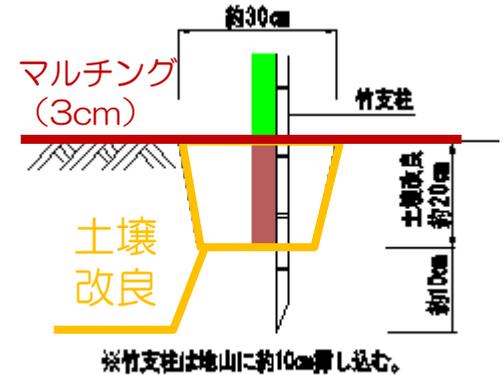
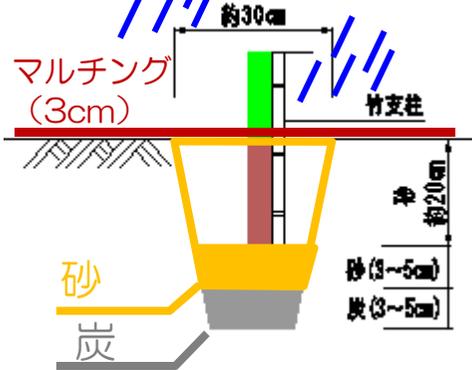


植栽は住民の参加を予定

作る（試験施工）植栽試験



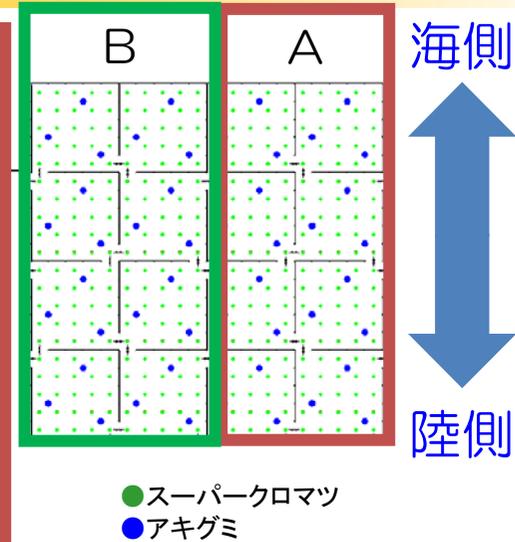
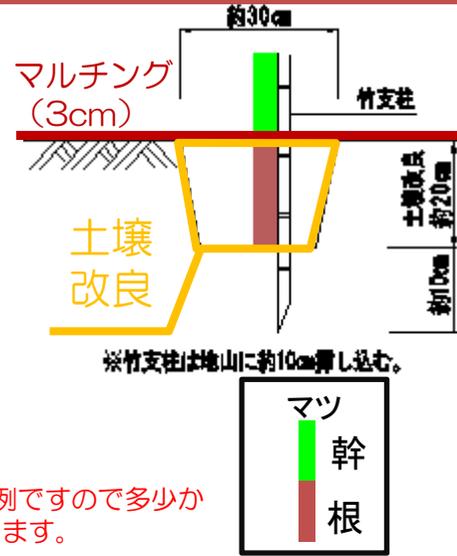
ショウロの胞子液



作る（試験施工）植栽試験

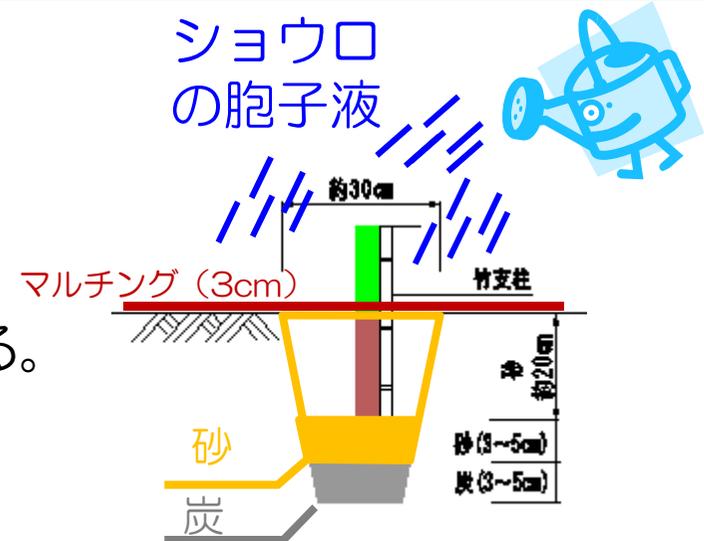
A：マルチングと改良土壌

- ① 20cm程度穴を掘る。
- ② ①にマツを入れる。
- ③ 土壌改良した土を入れる。
- ④ 竹支柱を30cmまで入れる。
- ⑤ 竹支柱にマツを固定する。
- ⑥ マルチングを行う。 ※この順番などは例ですので多少かわることがあります。



B：ショウロの孢子液と炭

- ① 20~30cm穴を掘る。
- ② ①の底に3~5cmの炭を入れる。
- ③ ②の上に3~5cmの砂を入れる。
- ④ ③の上にマツを入れる。 ⑤ 砂を入れる。
- ⑥ 竹支柱を30~40cmまで入れる。
- ⑦ 竹支柱にマツを固定する。
- ⑧ ショウロの孢子液を散布し、マルチングを行う。



※この順番などは例ですので多少かわることがあります。

ショウロ（松露）について

ショウロ（松露）とは
松露が発生する松原は健全である。

松原で松露が発生すると

- (1) 松は病気や乾燥に強くなる
耐病性、耐乾性
- (2) 白砂青松の松原である

雑草が繁茂し、広葉樹が繁茂した
暗い松原では発生しない

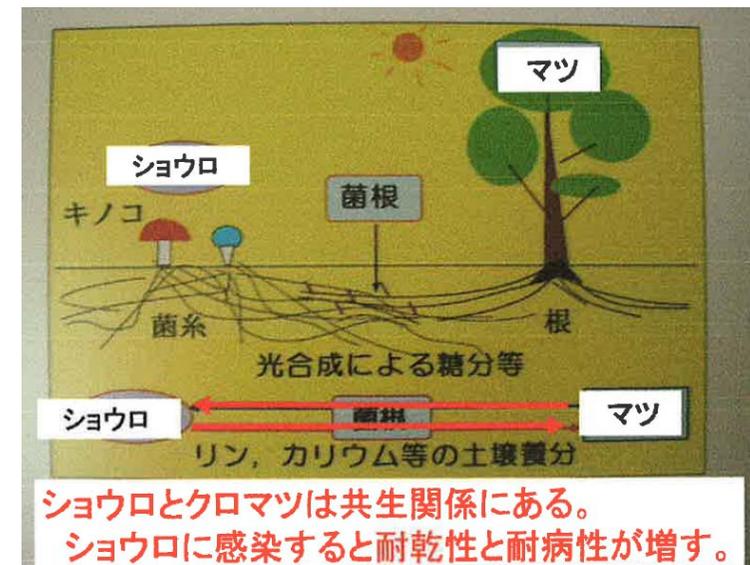
- (3) まぼろしのキノコを食べられる

クロマツは、きびしい環境にも耐えられる
強い樹種のように考えられていますが、
これは実は共生する菌のお陰なのです。

参照：海岸林を守る―「風の松原」からの発信―



佐賀大学 田中名誉教授の資料



佐賀大学 田中名誉教授の資料

シヨウロ（松露）の効果事例について

京都府 琴引浜

シヨウロ胞子液あり



京都府 琴引浜

シヨウロ胞子液なし



平成24年度以降

『育てる』について
(試験育成)

『育てる』の内容（試験育成）

観察項目・作業	内容
ゴミ拾い・清掃	・マツの活着に支障を来さないように清掃を行う
クロマツの 成長観察	・身体測定の実施（樹高、幹回り等） ・本数、不良幼木等の確認。必要に応じて撤去
乾燥点検	・夏場の乾燥時に散水を実施し、立枯れを防止
堆・静砂垣チェック	・冬に備え、堆砂垣の点検を実施
堆・静砂垣の修理	・必要箇所を修復し、防風、防砂効果を回復
クロマツの補植	・補植を行い、防風、防砂効果を維持
コウボウムギの 種子採取	・3月に行う播種用の種子を採取
コウボウムギの播種	・必要箇所に播種を行い、防砂効果を高める

『育てる』のスケジュール（事務局案）

平成24年度以降 観察項目・作業	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ゴミ拾い・清掃			■			成長不良木があれば撤去						
クロマツの 成長観察			■			■		■				■
乾燥点検				■	■	■						
堆・静砂垣チェック	乾燥防止							■		冬への備え		
堆・静砂垣の修理									■			
クロマツの補植												■
コウボウムギの 種子採取						■	■					
コウボウムギの播種												■

■ 住民、町、県でやること ■ 住民、町でやること ■ 県がやること

他団体の活動事例①

三里松原での活動（ボランティア）



毎年6月第1日曜日
クリーンキャンペーン・ラブアース

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
ゴミの除去・掃除 						○						
松葉かき 40～210人参加 												○
マツ植樹(補植含む) 130～360人参加 		○	○									

写真・図引用：<http://www5d.biglobe.ne.jp/~somiya/sanri/Sanri1.html>
<http://www.love-earth-jp.net/>

他団体の活動事例②

海の中道の活動（九州地方整備局）

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
成長不良木の除去									← 1～2回/年 →			
下枝剪定	→								← 1回/年 →			
間伐			↔									
			※博多夢松原の会の活動									
マツ植樹(補植含む)			↔									
			適宜									



樹高=5.0mの
マツが対象



間伐前

写真引用：http://nishitan.jp/ryokuchi/2010/04/801



間伐後

その他
・松枯発生時：薬剤散布
樹幹注入
抜倒処理

『育てる』（試験育成）

住民・町・県のみんなで育てて行こう！

松林を育てよう！

松林を育てるためには、**観察**
することが大事

①クロマツ観察会

②観察会でクロマツの状態などを確認する

③観察会のまとめ

④課題の抽出

①の観察会に戻る

③と④については県でまとめる



『観察会』のスケジュール（事務局案）



第〇〇回 観察会



平成24年度以降の 観察会のスケジュール案

9月、3月の年2回
または
6月、9月、11月、3月の年4回

観察項目例

- ①観察するマツの異常の有無
- ②周辺のマツは枯れていないか
- ③静砂垣の状態
- ④その他

観察者氏名：

年 〇月 〇日（水）

天気：はれ 気温：25℃

観察箇所

マツ観察場所：○

静砂垣破損箇所：△

マツが枯れている：×

		海側	
	××	○	×
	××		×
		陸側	

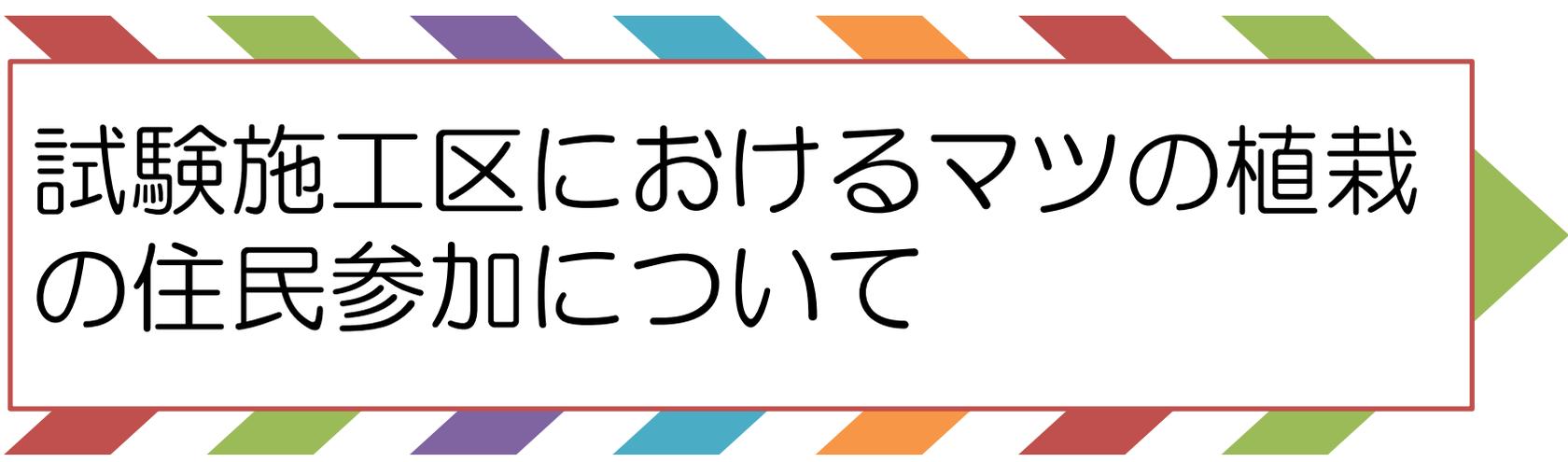
チェック項目

①観察するマツの異常の有無
異常無 (異常有 (状態：なんとなく元気がない))

②周辺のマツは枯れていないか
枯れていない (数本枯れている 壊滅状態)
枯れている箇所があれば右上の観察箇所に×を書いてください。

③静砂垣の状態
異常なし (一部に破損 壊滅状態)
破損している箇所があれば右上の観察箇所に△を書いてください。

④その他（ご自由にお書き下さい）
この間より大きくなっていた。



試験施工区におけるマツの植栽 の住民参加について

試験施工区におけるマツの植栽の住民参加について

3月11日（日曜日）に、試験施工箇所でマツの植栽を行う予定です。この植栽については、地域住民の方々のご協力を得ながら行っていきたいと考えています。

◎呼びかけの方法

3月1日の芦屋町広報、芦屋町および福岡県のHP掲載

◎呼びかけの対象

各種団体、地域住民、地元小学校など

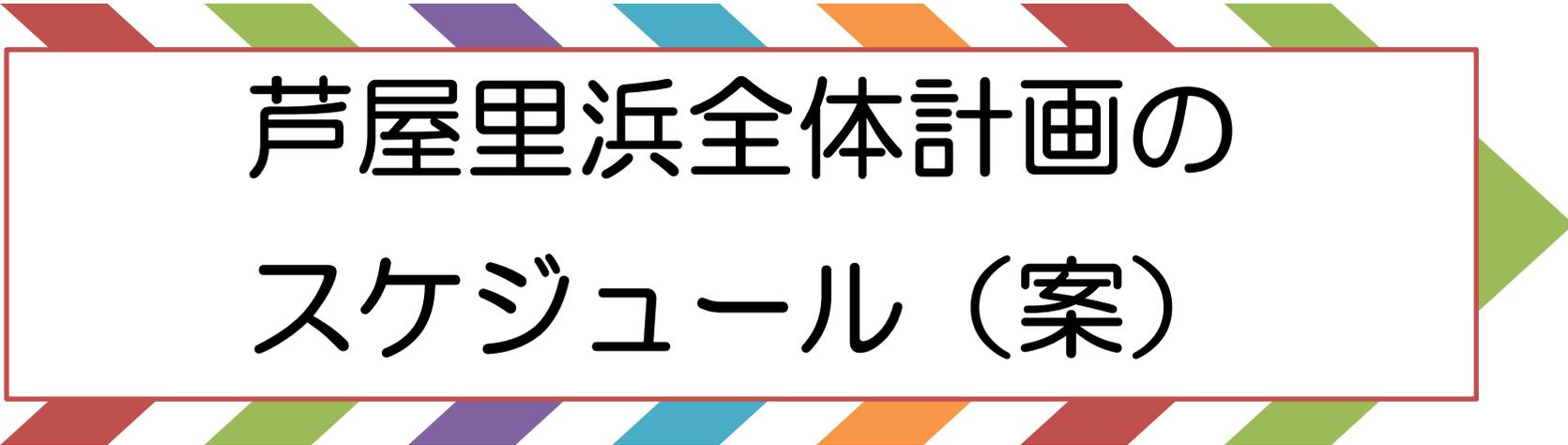
◎スケジュール（予定）※小雨決行

芦屋海岸に集合（10：00）～植栽終了（11：30）

◎各自準備した方がよいもの
長靴、カッパ、タオル、軍手

◎県が準備するもの
スコップ、軍手

◎植栽するときの人員配置（5人1組で1区画）

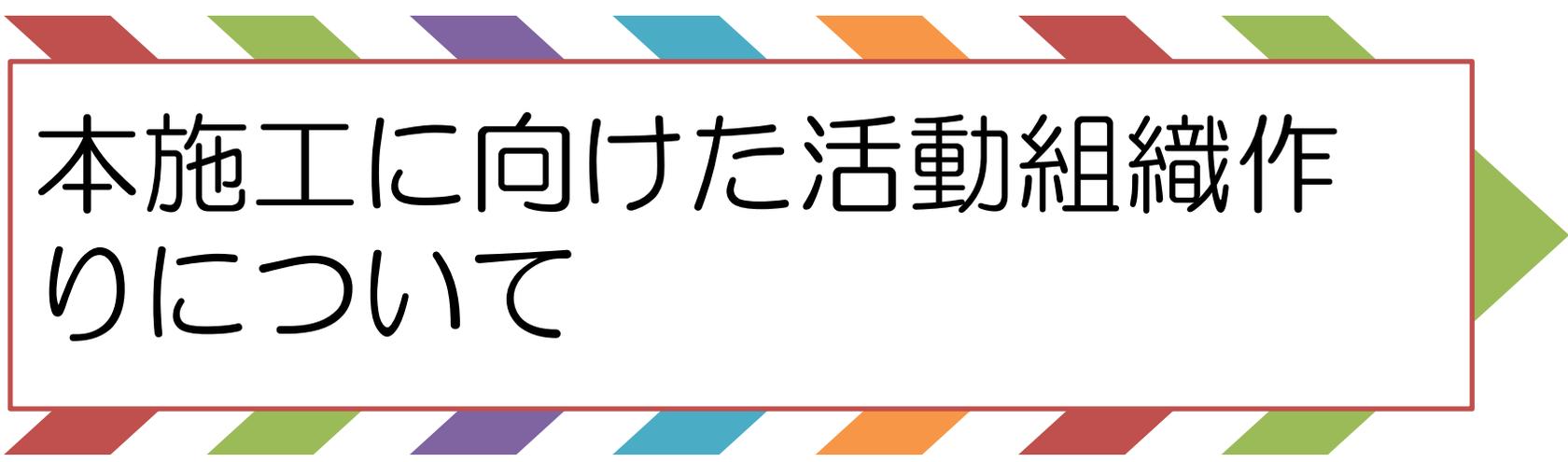


芦屋里浜全体計画の スケジュール（案）

芦屋里浜事業実施スケジュール（案）

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29
第4回実行委員会	←→						
試験施工（マツ植栽400本）	←→						
準備期間 （港湾計画の変更、防砂フェンス等）		←→					
実施組織作り			←→				
技術検討委員会		←→					
本施工（マツの植樹）					←→		

マツの育成状況確認のために本年度は、マツを400本植栽します。
 来年度からは、マツの育成状況の把握など行います。
 本施工については、技術検討委員会に図りながら行います。



本施工に向けた活動組織作りについて

本施工に向けた活動組織作りについて

試験施工期間中は、**本施工へ向けて芦屋里浜実施組織**を立ち上げる期間でもあると考えられます。その組織の立ち上げ方の例を示します。

①住民の方への周知・参加の呼び掛け

試験施工中の観察記録などを広報等により地域の方々へお知らせし、観察会への参加を継続的に呼びかける。

②参加ボランティアの公募

県HP等を活用して、観察会などへの参加を広く募集するとともに、芦屋海岸を中心としたマツの植栽、育成、管理を行う団体の設立を目指す。

③既存活動団体への声掛け

マツの植栽、育成、管理などの活動実績のある団体へ声をかけて、まず芦屋での活動を開始する。その後、活動の輪を地元を広げる。